

旧約でヨブが神の消耗させることとはぎ取ることを経験することは、  
新約におけるパウロの経験にはるかに及ばない

聖書：ヨブ 3:1. II コリント 4:10-12, 16-18. ペリピ 1:19-25. 4:4

- I. ヨブは極みまで憂慮し、困惑し、惑わされました。なぜなら、彼は完全で、正しく、高潔であったにもかかわらず、災いが彼の所有物と彼の子供たちに臨み、災いの病が彼の体に臨んだからです：
- A. ヨブは自分の生まれた日をのろったとき（それは自分の母をのろうことと等しいです）、確かに完全でなく、正しくなく、自分の高潔さを保ちませんでした。むしろ、彼は高潔さにおいて破綻しました——ヨブ 3:1。
- B. 神の意図は、自分の完全さと正しさの中にある天然のヨブを取り壊して、神の性質と属性を持つ新しくされたヨブを建て上げて、ヨブを神の人とならせ、神のエコノミーにしたがって神で構成することでした。そのような人は（パウロのように）、決してどのような困難や問題にも惑わされず、自分の生まれた日をのろったり、生きることより死ぬことを願ったりはしません——ペリピ 1:19-25. 4:5-9。
- C. ヨブは自分のすばらしい過去について思い巡らし、自分の悲惨な現在についてため息をついていました（ヨブ 29:1 — 30:31）。彼は、自分の正しさ、義、高潔さ、完全さを堅く保ち、誇ってさえいました（27:1-7. 31:1-40）：
1. しかしながら、パウロは訓練して、後ろにある過去の事を忘れて、現在の「今日のキリスト」を最も満ち満ちた程度にまで獲得しました——ペリピ 3:8, 13-14。
  2. さらにまた、パウロは昨日の人ではなく、今日の人でした（ヘブル 3:7-8, 15. 詩 95:7-8）。わたしたちは将来に目を向けるべきでなく、また過去を振り返るべきでもありません。わたしたちは今日の人です（マタイ 6:11, 33-34. ルカ 19:9-10. 23:43）。
  3. わたしたちの愛するキリストは、現在のキリスト、今日のキリスト、天の御座におけるキリストです。彼はわたしたちの日ごとの救い、時々刻々の供給であって、地上で天的な生活をするようわたしたちを支えます——マタイ 28:20. I ペテロ 1:8. ヘブル 8:2. 4:14-15. 7:26. II コリント 6:2. ローマ 5:10。
  4. わたしたちが完全に新エルサレムになるとき、わたしたちにあるのは今日です。なぜなら、永遠におけるあらゆる日は今日であるからです。わたしたちの持っている唯一の日は今日であって、明日ではありません。
- D. ヨブは彼の三人の友に対する八回の語りかけを通して、自分が以下の八つの特徴を持つ者であることを自ら暴露しました：
1. ヨブは自らを義しい者としました（ヨブ 6:30. 9:20. 27:5-6. 32:1）。彼は、自分の天然の人の成功や成就によって暗くされていて、自分の状態に満足していました。しかしながら、彼は神の御前にみじめな状況であることに気づい

ていませんでした（参照、ピリピ 3:9. 啓 3:17-18）。

2. ヨブが神を認めていたのは名ばかりであって、実際においてではありませんでした。彼は、神によって浸透されておらず、神で満たされておらず、神とミングリングされて神と一になってはいませんでした——詩 92:10. レビ 2:4-5. ローマ 8:16. II テモテ 4:22. I コリント 6:17. エペソ 3:19. 5:18, 26. ヘブル 2:10-11.
  3. ヨブは、永遠にわたって神を生き神を表現する神の有機体としての新エルサレムのある面やある特徴を示すどのような要素も持っていませんでした。これとは反対に、勝利者の上には、神の御名と新しいエルサレムの名と主の御名が書き記されています。これが示していることは、神であるもの、新しいエルサレムの性質、主のパーソンがすべて、勝利者たちの中にすでに造り込まれているということです——啓 3:12.
- E. ヨブも彼の友も、神がヨブを対処する目的について、使徒パウロが新約の信者に告げたようには知りませんでした。信者が受けている患難は、彼らに永遠の重い栄光をもたらすためであり、それは栄光の神が彼らの栄光なる分け前となって、彼らに獲得させ享受させて、永遠に至るということです——II コリント 4:17.
- F. もしヨブと彼の友が時間を費やして、へりくだりの霊の中で神を尋ね求め、祈りの中で彼らの霊を活用していれば（イザヤ 57:15. 66:2. コロサイ 4:2）、神は彼らに次の事を示すことができたでしょう。すなわち、再生され、造り変えられ、栄光化された、キリストにある聖徒は、天然の人と何の関係もなく、また天然の美德をもって自分自身を建て上げる必要はないということです。
- G. この天的なビジョンは彼らを、三十五の章にわたる、時間を浪費する、痛みを増し加える、空虚な弁論から救っていたことでしょう。これらの章は、一群れの盲目的な人々が暗やみの中で模索している記録です。彼らは神について論じ、彼らの霊にも言及しました（ヨブ 32:8）。しかし彼らは、三回にわたる長い弁論の中で、彼らの思いを活用しました。そして、彼らの霊を用いてヨブのために祈ったり互いに交わったりはせず、それゆえ彼らがみな神に触れ、神を彼らの命、光、霊的供給として受け入れることはできませんでした：
1. もしわたしたちがバイタルグループを持つとするなら、ヨブ記にあるこれらの人の対話から警告を受けなければなりません。わたしたちがヨブ記の中で見るグループは、わたしたちに消極的な例を与えています。それは、今日わたしたちが召会生活の中で持つべきでない種類のグループ集会です。わたしたちが集まるときに最初に行なわなければならないことは、わたしたちの霊を活用して祈ることです。バイタルグループは、バイタルな祈りのグループです——参照、使徒 12:5, 11-12. ヘブル 10:24-25. 3:13.
  2. バイタルグループは、以下の二つの霊においてバイタルです。すなわち、わたしたちの人の霊においてバイタルであり、また神の神聖な霊においてバイタルです。クリスチャン生活は、三一の神の究極的完成としての究極的に完

成された霊が、わたしたちの再生された霊の中に住み、ミングリングされて、一つ霊となる生活です——ヨハネ 4:24. ローマ 8:16. I コリント 6:17. ガラテヤ 3:14. 6:18。

3. わたしたちは、わたしたちの霊の中で神聖な霊に触れることを学ぶ必要があります。これが、クリスチャンの生活と働きの内在的な意義です。これが、人の中での神の行動であり、また神の中での人の行動であって、神のエコノミー、神のご計画を成就します。すなわち、神ご自身をキリストの中でその霊として、人の中へと分与します。そして、キリストのからだを建造し、キリストの花嫁の用意を整え、新エルサレムを究極的に完成します——II コリント 2:13. ピリピ 3:3. ローマ 1:9。
4. パウロがローマ人への手紙の中で強調している事は、わたしたちが何であろうとも (2:29. 8:5-6, 9)、わたしたちが何を持っていようとも (10, 16 節)、わたしたちが神に対して何を行なおうとも (1:9. 7:6. 8:4. 12:11)、わたしたちの霊の中にいなければならないということです。わたしたちは成就され、建造されて、霊の中の人とならなければなりません。わたしたちが神を愛する人になるには、キリストを追い求める人になるには、勝利者となるには、霊の中にいる以外に他の道はありません (啓 1:10. 4:2. 17:3. 21:10)。

## II. 旧約でヨブが神の消耗させることとはぎ取ることを経験したことは、新約におけるパウロの経験にはるかに及びませんでした——I テモテ 1:16 :

- A. 神が消耗させることは、わたしたちを疲れ果てさせることです。神がはぎ取ることは、わたしたちがキリストを生かし出してキリストを表現することに置き換わるわたしたちの天然の高潔さの総合計 (わたしたちの性格における天然の完全さと正しさ) を、取り壊し、取り去ることで——ピリピ 1:19-20. 3:4-9 前半。
- B. 毎日、毎時、ヨブは消耗させられており、喜んでいませんでした。しかし、新約では、神の消耗させることとはぎ取ることは、喜ばしい事となります。パウロは回心した日から、神の消耗させることとはぎ取ることの下にいた人であり、主の中の囚人でした。しかし、彼は喜びと歡喜で満たされていました——使徒 9:15-16. II コリント 4:16. ピリピ 1:19-21 前半. エペソ 3:1. 4:1. ピリピ 1:4, 18, 25. 2:2, 17-18, 28-29. 3:1. 4:1, 4。
- C. パウロは、キリストと共に十字架につけられました。終結させられ発芽させられることを通して再び生まれることは、再生されて十字架につけられることです (ヨハネ 3:5. ローマ 6:4. コロサイ 2:12)。わたしたちはパウロと同じように、再生されて十字架につけられましたが、その目的は、その時から、生きているのがもはやわたしたちではなく、キリストがわたしたちの中に生きるためです (ガラテヤ 2:20)。
- D. 今、わたしたちのクリスチャン生活において、わたしたちは死を通して生きます (ガラテヤ 2:20. I コリント 15:31, 36. ヨハネ 12:24. II コリント 4:11)。死を通して生きることが、十字架を負うことの正しい意義です (マタイ 16:24-26。

詩歌 461 番)。

- E. パウロは神の消耗させることとはぎ取ることを経験したとき、四方から圧迫されても窮することはなく、投げ倒されても滅びませんでした。パウロは自分の生まれた日をのろわず、生きることより死ぬことを願うとは言いませんでした。その反対に、パウロは多くの考慮の後、その信仰に対する聖徒たちの進歩（彼らの命の成長）と喜び（キリストに対する彼らの享受）のために、なおも生きることを願うと言いました——Ⅱコリント 1:8-9. ガラテヤ 2:20. ピリピ 1:21-25。
- F. パウロはキリストのために苦悩していたとき（Ⅱコリント 12:10）、十分に喜んでおり、幸いであり、自分の経験のゆえに主の中で歓喜さえしていました（コロサイ 1:24. ピリピ 2:17-18）。
- G. パウロは、キリスト、彼の復活の力、彼の苦難の交わりを知って、キリストの死へと同形化されることを求めました（ピリピ 3:10）。彼はキリストの死を、自分の生活の原型としました。そして、キリストの死にかたどられることは、パウロの大いなる喜びでした。
- H. パウロはイエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、生きるにも死ぬにも、キリストを生きることによってキリストを大きく表現しました。神は人を創造したとき、人がこのような生活をするを願いました——ピリピ 1:19-21 前半. 創 1:26。
- I. パウロが言った事は、絶えず彼の体にイエスの致死力（殺すこと）が働いており、また絶えずイエスのために死に渡されており、それはイエスの命が、自分の死ぬべき肉体において現されるためであるということでした。わたしたちが主の死の殺しの下にあるとき、彼の復活の命は、わたしたちを通して他の人たちの中へと分け与えられます——Ⅱコリント 4:10-12：
1. わたしたちの環境の中で、イエスの致死力は内住する霊と協力して、わたしたちの体と魂から成るわたしたちの天然の人（わたしたちの外なる人）を殺します。わたしたちの外なる人が、死の殺す働きによって消耗させられつつあるとき、わたしたちの内なる人は、復活の命の新鮮な供給をもって日ごとに新しくされていきます——Ⅱコリント 4:16。
  2. パウロは、自分は日ごとに死んでいると言いました（Ⅰコリント 15:31）。日ごとに、彼は死の危険にさらされ、死に直面し、自己に対して死にました（Ⅱコリント 11:23. 4:11. 1:8-9. ローマ 8:36）。
  3. キリストの死とその効力の適用は、複合の霊の中にあります。この霊はわたしたちの霊の中に住んでおり、キリストの死とその効力を分与して、わたしたちの霊からわたしたちの魂に至り、さらにわたしたちの死ぬべき体にまで至ります——出 30:22-25. ローマ 8:6, 9-11。
  4. この分与は油塗りであり（Ⅰヨハネ 2:20, 27）、油塗りは内住する霊の動きです。わたしたちの祈りは内住する霊の動きを開始させ、この動きの中には殺す力があります。
- J. パウロが神の消耗させることとはぎ取ることを経験したときに言った事は、わ

わたしたちの受けるつかの間の軽い患難が、ますます卓越した永遠の重い栄光を、わたしたちにもたらすということです。「永遠の」は「つかの間の」と対比しており、「重い」は「軽い」と対比しており、「栄光」は「患難」と対比しています——Ⅱコリント 4:16-17. ローマ 8:28-29。

K. ヨブは自分の受けた患難をとて重いものと考えましたが、パウロは自分の患難をつかの間の軽いものと考えました。わたしたちは自分の患難を気にするのではなく、わたしたちがある程度の栄光から別の程度の栄光へと造り変えられることによって、重い栄光としての神がわたしたちの内側で増し加わることに注意する必要があります。わたしたちがさらに多くの神をわたしたちの中に持つてさえいるならば、これこそ真に重要な事です——使徒 7:2. Ⅱコリント 3:18. コロサイ 2:19 :

1. わたしたちはパウロと同じように、苦難と圧迫の環境の中にいます。この環境は、その霊と共に働いて、わたしたちの天然の人を殺します。わたしたちは、わたしたちの霊と魂と体において、内住する霊と協力し、外側の環境を受け入れるべきです。なぜならわたしたちは、一時的な苦難である見えるものではなく、永遠の栄光である見えないものに目をとめるからです——ピリピ 1:19-20. Ⅱコリント 4:18. ヘブル 11:1, 27. Ⅱコリント 5:7。
2. わたしたちは、わたしたちの霊を活用して、殺す環境のただ中で歓喜する必要があります (ピリピ 4:4)。主の主権は働いて、わたしたちをキリストの死の殺しの下に置きます。それによって、彼の命はわたしたちの体において現され、わたしたちの内なる人を新しくし、わたしたちを新エルサレムと同じように新しくします (Ⅱコリント 4:10-12, 16. 5:17. ガラテヤ 6:15. 啓 21:2, 5, 10)。